

2023年2月の東京都の精神科病院で起こった看護師による入院者への虐待事件に関する会長声明

2023年2月東京都の滝山病院で起こった看護師による虐待事件は、その生々しい映像が同時に報道されましたが見ていて落ち着いてはいられなくなるほどの不快で恐怖をおぼえるものでした。精神障害当事者の皆さんをはじめとする精神保健・医療・福祉の関係者のみならず市民の皆さんにとっても大きな衝撃であったと思います。同じ専門職が次々に起こすこのような事件に対し、深く恥じ入るところであり、同じ専門職として、今回の行為は強く非難されるべき行為であります。しかしケアに携わる看護職は、これを一部のものの蛮行と他人事にははいけません。私たちはどこかに必ず差別や偏見が存在すること、権力のある中にいるしてしまうことを自覚し、医療的判断とされるもの、正しいとされる判断そのものを俯瞰し、疑ってみるようなあり方が必要でしょう。再発防止に向けては看護職の一人一人が自らの専門職としてのありかたと向き合っていく必要があります。

多くの精神科看護師が会員である本会においても、これまで2020年の神出病院の事件に対しても声明を出し、学術集会でも本会のプログラムとなっているCVPPP（包括的暴力防止プログラム）の存在意義の中に虐待防止があることをお話しさせていただいてきたところです。

CVPPPの理念は、当事者の皆さんと共に、スティグマや差別、精神科医療の強制性がもたらすどんな小さな暴力性にも目を向け、安心できる精神科医療を実現しようとするものです。一方で、医療者側だけの正当性を基盤にしたプログラムは、当事者にとって不快なものになりかねません。現在でも、当事者の皆さんとともに、広く社会から受け入れられるプログラムへと変化させるよう、信州大学の科研での取り組みを中心に行っているところですが、これまで以上にCVPPPが虐待の抑止力というだけでなく、当事者のリカバリーを支援することのできるものになるよう、努力をつづけていきたいと思っております。

虐待防止のためのシステム作りが今後進んでいく中、この問題に関して、本会の社会的な役割を果たせるよう、本質を見つめていけるように提言なども行っていきたいとおもいます。そして、権力勾配が生み出す支配的構造に目を向け、医療の外側からも俯瞰してみる中で、当事者の皆様、市民の皆様と検討を重ねていきたいと考えています。

令和5年3月2日
一般社団法人日本こころの安全とケア学会
会長 下里 誠二